



9/18 明治安田生命が寄付金を贈呈



明治安田生命保険相互会社松山支社（丸山和則支社長）から寄付金が贈呈され、新型コロナウイルス感染症対策用品に活用してほしいとの趣旨のもと、しこちゅ〜ホールの非接触式体温検知システムと飛散防止パーテーションなどに活用されました。

9/18 川之江地域で学校給食に高級魚スマを提供



愛媛県漁業協同組合が、新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ県産高級魚の消費を促し、漁業者への支援や子どもたちの魚食教育を推進するため、9月から3月にかけて養殖スマ、天然・養殖タイ、養殖ブリを月2回程度、県内の学校給食に無償で提供しています。

9/18 四国中央地区トラック協会が防犯カメラを寄贈



四国中央地区トラック協会（西岡 斉 地区会長）から地域の防犯力向上のため、四国中央地区防犯協会（篠原実会長）に防犯カメラ4台が寄贈され、感謝状を贈呈しました。寄贈された防犯カメラは、市内2か所に設置されています。

9/23 新宮小・中学校参加型公開授業



愛媛大学社会共創学部ものづくりコースの先生が講師となり、ロボット教材を用いて行われました。授業に参加した児童は「プログラミングの方法が分かってとても楽しかったです。入学して、いろいろな新しいことを学んでみたいです」と話していました。

9/24 株式会社アメックスが寄付金を贈呈



香川県に本社を置く株式会社アメックス（十川勝樹代表取締役）の設立20周年を記念し、同社が経営する「au ショップ下柏店」が所在する本市に寄付金が贈呈され、発達支援事業に係る新型コロナウイルス感染症対策へ活用させていただきました。

9/29 ベストデリカ有限会社が知育玩具を寄贈



川之江町のベストデリカ有限会社（昇由貴宏代表取締役）と株式会社中国銀行（加藤貞則取締役頭取）から、SDGs 私募債を活用して、知育玩具（室内用ブロック）50個組3セットが寄贈されました。いただいた知育玩具は川之江こども園で活用されています。



## 9/30 金生川ラバーズに感謝状を贈呈



金生川ラバーズ（井上百代代表）が金生川で実施した「鮎のぼり掲揚」に対し感謝状が贈られました。井上代表は「今年は120匹の鮎のぼりを設置したが、来年はもっと多く、より高く、電車からも見えるように金生川の鮎をPRしたい」と話していました。

## 9/30 NPO 法人カノンが寄付金を贈呈



NPO 法人カノン（寶利佳代会長）から川之江にぎわい広場ステージ棟の備品購入に対する寄付金が贈られ、希望物品として、川之江にぎわい広場ステージ棟の1階と2階の出入り口に設置する大型の壁掛け丸形鏡に活用されました。

## 10/7 四国中央地区更生保護女性会が手作りマスクを寄贈



四国中央地区更生保護女性会（宮崎洋子会長）から手作りマスク約1400枚が寄贈され、篠原市長は「いただいたマスクは、関係機関でそれぞれ意識を持って使っていただくことで、気持ちが伝わっていくと思います」と感謝の言葉を述べ、感謝状を贈呈しました。

## 10/8 シンワ株式会社から感染防護衣を寄贈



妻鳥町のシンワ株式会社（井上和久代表取締役社長）から感染防護衣が200着寄贈されました。篠原市長は「消防隊員を守るために大変ありがたいものです。有効活用させていただきます」と感謝の言葉を述べ、感謝状を贈呈しました。

## 10/12 JOC ジュニアオリンピックカップ 全国中学生陸上競技大会 2020 に出場



川之江南中学校陸上部3年伊藤琉成さん、村上海翔さん、山田暖音さん、2年森實倅大さん、吉岡知希さん、山岡勲名さんの6名が全国大会に出場することを市長に報告し「悔いが残らないようベストを尽くし、自分の力を出し切ってきます」と抱負を語りました。

## 10/15 エリエールフーズ株式会社が寄付金を贈呈



エリエールフーズ株式会社（吉田省三代表取締役）から「コロナ禍で飲食業界は大変苦しい経営状況ですが、市の激励給付金事業などの施策に助けられている部分も大きいため、その恩返しの意味を込めて」と、市に対し寄付金（10万円）が贈呈されました。



## 9月21日の敬老の日をお祝いし、花火が打ち上げられました



敬老の日を祝し、浜公園、伊予三島運動公園、寒川豊岡海浜公園ふれあいビーチ、やまじ風公園の市内4か所で花火が打ち上げられました。

花火の打ち上げは、新型コロナウイルス感染症対策のため、人が集まることを避けるよう、開始5分前に市内放送で周知され、浜公園から順次、各会場にて3分程度打ち上げが行われました。

少数の花火ではありましたが、秋の夜空をきれいに彩りました。



### 金生川ラバーズと鮎のぼり

### 市長のひとりごと



四国中央市長  
篠原 実

金生川ラバーズという金生川の環境浄化と憩いの場を造ろうと結成された団体がある。河川敷の清掃や稚鮎の放流事業などをされている。

私は、その土手沿いの道が散歩コースなので、自分の守備範囲の感覚がある。また、豪雨や大雨の時には、山田井橋から水量を確認に行く。

昨年から川之江ふれあい交流センターの南、栄橋の下流側、川幅約70メートルの所にロープを張り、去年は60匹、今年はロープ2本で倍の120匹をつるしていた。夏の夕方、川面をわたる風になびいて（泳いで）いる…鮎は、なかなかの風情であった。銅山川釣りクラブのキャップが「金生川の鮎は、この近辺のどこの鮎よりうまい」と私に力説されていた。食べ比べはしていないが、川がきれいになってきているのは間違いないと思う。

ラバーズのメンバーの人が、もっと見やすく、目にとまる場所がないかと探している。知恵があれば教えてください。鮎のぼりに園児が書いた文とイラストもおおつなものである。もう今年は終わりましたから、来年市民みんなで期待しましょうね！それと金生川ラバーズの活動をみんなが応援しようね！感謝であります。



※23ページに関連記事